

	課題分析	授業改善策
国語	情報を正確に読み取る力と基礎学力（漢字や語彙）の力が低い生徒が多い。自分の考えを文字に起こすということに抵抗がある生徒が多いため、文章表現が苦手である。	基礎学力の定着のために、語彙や漢字の学習の時間を増やし、小テストなどで確認を行う。文章の要約や短文作成などの機会、生徒自らが考えて書く学習活動を多く取り入れる。
社会	基本的・基礎的な知識の定着に課題がある生徒の割合が多い。一つの資料から複数の考察をし、事象と事象とを関連付け協同して思考することに課題がある。	スパイラルな学びを増やし、何度も繰り返すことで知識の定着を向上させる。個人の思考と、集団での思考が一層結びつくような課題・資料設定をする。
数学	生徒間で習熟度の差が大きい。そのためコースごとに生徒の実態に合わせて、各学年で習熟度別授業を行っている。生徒のつまずきを感じた際は、その都度復習するなどコースごとに適切な指導を継続していく必要がある。	授業中に近くの子や教員に質問できない生徒が各クラスに数名いる。その生徒たちを教員が見逃さずにフォローをしていくことが重要であるとする。また各習熟度別のクラスにおいて、教科書をベースにしながらか実態に応じた教材を準備していく必要がある。
理科	生徒間での既習事項の定着度に差があり、ケアレスミスが目立つ。観察・実験結果を統合的に考察する力や思考力が不足している。思考力を必要とする活動に取り組むことをあきらめる生徒がいる。学習方法の調整を考える生徒が少ない。	ICT機器を活用し、章末テストを増やすことで演習の機会を増加させ、知識の定着度を向上させる。問題のポイントを明示し、実験結果や考察に取り組む前に十分な準備を促す。教え合いの活動を導入し、生徒間の理解の差を縮める。定期的に学習方法を指導し、生徒が自主的に学習を調整できるようサポートする。
音楽	音楽を多角的、主体的に感じ取り、表現しようとすることや、言葉で表現することに課題がある。また、発声の原理を明確に理解させて実践させることに課題がある。	あらゆる分野の「良い音楽・良い演奏」を聴かせて、生徒の歌唱や演奏に取り入れてレベルアップさせる。そして、パート練習やお互いに聴き合い話し合う活動を通して、ハーモニー感覚を養わせる。また、合唱練習時や音楽鑑賞の態度、姿勢などの授業規律を守り、前向きに取り組めるようにする。
美術	構想の最初から安易にタブレットPCを使おうとし、模倣に走ってしまう生徒が目立つ。一部の興味関心の弱い生徒によって授業進行が乱されることがある。	コンセプトを考える段階まではWeb以外の資料探しやフィールドワークといった体験を伴う活動を中心にし、時間をかけてオリジナルのアイデアを探求できるように課題を組んでいく。全員対象のカウンセリングを実施し、個に応じたサポートと励ましを徹底することで意欲を高められるようにする。
保健体育	令和4年度の体力テストの結果から、全国の平均値と比べると谷原中学校の平均値が劣っている項目が少なくない。	体力の向上を促すために、実技の授業では毎回、導入部分でトレーニングを取り入れる。また、主運動を行う時間を確保することにより1単位時間内の運動量を増やす。学区内の小学校と連携し、持久力と巧緻性を伸ばす研究、授業の工夫を行う。
技術・家庭	体験的な経験が少ないため、実習での手際の悪さが目立つことがある。	実習の中で繰り返し取り組む機会を増やし、実生活に活かせる経験へとつなげていく。
外国語（英語）	音で覚えている生徒は多いが、発音している単語と文法的な意味が繋がらず書くことに課題がある。即興的な会話は正しい語順で発話できない場面が多い。	視覚的支援も行いながら発話と単語の一致、品詞などの文の構造を繰り返し学習する。帯活動を活用し即興的な会話の機会を多く設ける。ALTとの交流などの時間も有効に活用し、自分のことを表現する時間・活動を多く設ける。